

各関係機関長 殿

岡山県病虫害防除所長
(公印省略)

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予報第3号を下記のとおり発表したので送付します。

平成29年度病虫害発生予報第3号

平成29年6月1日
岡山県

予報概評

作物名	病虫害名	発生時期	発生量
水 稻	葉いもち ヒメトビウンカ ツマグロヨコバイ ニカメイガ	並 — — —	並 少 少 並
ジャガイモ	疫病	—	並
モ モ	灰星病 黒星病 せん孔細菌病 モモハモグリガ ナシヒメシンクイ カメムシ類	— 並 — やや遅 — —	並 やや少 やや多 少 やや多 やや少
ブドウ	べと病 うどんこ病 灰色かび病 フタテンヒメヨコバイ	並 並 並 やや遅	やや少 やや多 やや少 やや少
トマト	疫病 灰色かび病 葉かび病	やや遅 やや遅 —	やや少 やや少 並
キュウリ	べと病 褐斑病 炭疽病	— — 並	並 やや多 並
ダイコン	軟腐病 コナガ	やや遅 —	並 やや多
野菜全般	アブラムシ類 モザイク病 ミナミキイロアザミウマ	— — —	やや多 並 並
キ ク	白さび病 ナミハダニ	やや遅 やや遅	少 並

1. 普通作物

(水 稲)

(1) 葉いもち

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. 中北部地帯の田植時期、生育概況は概ね平年並である。

イ. 5月25日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量はほぼ平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 育苗箱施用剤の残効は40～60日とされており、5月中旬までの田植えでは6月下旬頃から効果が低下すると考えられるので、その後病斑がみられる場合は薬剤を散布する。

(2) ヒメトビウンカ

予報内容

発生量 ヒメトビウンカ（第1世代成虫） 少

予報の根拠

ア. 県予察圃場における5月のヒメトビウンカ成幼虫の発生量は5頭であり、平年(106.2頭)より少なかった。

(3) ツマグロヨコバイ

予報内容

発生量 ツマグロヨコバイ（第1世代成虫） 少

予報の根拠

ア. 県予察圃場において5月のツマグロヨコバイ成幼虫の発生は認められず、平年(27.1頭)より少なかった。

防除上の参考事項

ア. ツマグロヨコバイが媒介する萎縮病は、近年少発生が続いている。

(4) ニカメイガ（越冬世代成虫）

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおいて、5月5半旬までに平年同様誘殺を認めていない。

(ジャガイモ)

(1) 疫病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 5月16日、17日の巡回調査では、発生を認めなかった。

イ. 5月25日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量はほぼ平年並とされており、特に発病を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 発生圃場では、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

2. 果 樹

(モ モ)

(1) 灰星病（早生種）

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 5月8日の巡回調査における花腐れの発生圃場率は39.3%で平年(9.6%)より高く、5月23日の巡回調査における芽枯れ、枝病斑の発生量は平年よりやや多く、幼果への感染量は平年よりやや多いと考えられる。

イ. 5月25日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量はほぼ平年並とされており、発病をやや抑制する条件である。

(2) 黒星病

予報内容

発生時期 並 発生量 やや少

予報の根拠

ア. モモの生育は平年並に推移している。

イ. 5月23日の巡回調査によると、枝上の越冬病斑密度は、平年並であった。

ウ. 幼果における本病の潜伏期間は約35日(果実生長第2期以降は20日)とされている。5月の降水量は少なかったため、幼果への感染は平年より少ないと考えられる。

(3) せん孔細菌病

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 5月23日の巡回調査によると、発生圃場率は7.1%で平年(5.7%)よりやや高かった。

イ. 5月25日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量はほぼ平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

ウ. 県南部の7月下旬のモモせん孔細菌病の発生助長要因である「今年の8月中旬の発生圃場数」は多い(岡山県病害虫防除所調査)。

防除上の参考事項

ア. 植物防疫情報第1号(4月12日発表)「今がモモせん孔細菌病の防除適期です！」参照。

(4) モモハモグリガ(第2世代幼虫)

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 少

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップによると、5月1～5半旬の誘殺数は1頭で、平年(20.0頭)より少なかった。

イ. 5月23日の巡回調査によると、発生圃場率は0%で平年(7.9%)より低かった。

ウ. 5月25日の季節予報によると、6月の気温は高く、本虫の発生をやや助長する条件である。

(5) ナシヒメシンクイ

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップによると、5月1～5半旬の誘殺数は2頭で、平年並(4.0頭)であった。

イ. 5月23日の巡回調査によると、心折れの発生圃場率は25.0%で平年(5.0%)より高かった。

ウ. 5月25日の季節予報によると、6月の気温は高く、本虫の発生をやや助長する

条件である。

(6) カメムシ類

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における5月1～5半旬のチャバネアオカメムシの誘殺数は14頭で、平年(27.4頭)より少なかった。フェロモントラップでの誘殺数は49頭で、平年(321.0頭)より少なかった。

イ. 5月25日の季節予報によると、6月の気温は高く、本虫の発生をやや助長する条件である。

(ブドウ)

(1) ベと病

予報内容

発生時期 並 発生量 やや少

予報の根拠

ア. ブドウ(ピオーネ)の生育(開花期)は平年並に推移している。

イ. 県予察圃場のピオーネ、ネオマスカットにおいて、5月30日まで発生を認めていない。

ウ. 5月23日の巡回調査では、平年同様発生を認めなかった。

エ. 5月25日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量はほぼ平年並とされており、発病をやや抑制する条件である。

(2) うどんこ病

予報内容

発生時期 並 発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. ブドウ(ピオーネ)の生育(開花期)は平年並に推移している。

イ. 5月の日照時間は平年より多く、本病の発生を助長する気象条件であった。

ウ. 5月25日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量はほぼ平年並とされており、発病を特に助長する条件ではない。

(3) 灰色かび病

予報内容

発生時期 並 発生量 やや少

予報の根拠

ア. ブドウ(ピオーネ)の生育(開花期)は平年並に推移している。

イ. 5月25日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量はほぼ平年並とされており、発病をやや抑制する条件である。

(4) フタテンヒメヨコバイ

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 やや少

予報の根拠

ア. 5月23日の巡回調査によると、被害発生圃場率は0%で、平年(7.5%)より低かった。

イ. 5月25日の季節予報によると、6月の気温は高く、本虫の発生をやや助長する条件である。

3. 野菜

(トマト)

(1) 疫病

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 やや少

予報の根拠

ア. 5月24、26日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年(5.6%)より低かった。

イ. 5月25日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量はほぼ平年並とされており、発病をやや抑制する条件である。

(2) 灰色かび病

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 やや少

予報の根拠

ア. 5月24、26日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年(49.7%)より低かった。

イ. 5月25日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量はほぼ平年並とされており、発病をやや抑制する条件である。

(3) 葉かび病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 5月24、26日の巡回調査によると、発生圃場率は16.7%で平年(21.1%)並であった。

イ. 5月25日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量はほぼ平年並とされており、特に発病を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 本病の初発生時期(雨除け栽培トマトでは6月下旬~7月上旬)と病勢進展時期(7月下旬~8月上旬)に効果の高い殺菌剤を予防散布する防除体系は、葉かび病の防除に有効である。

(キュウリ)

(1) ベと病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 5月24、26日の巡回調査によると、発生圃場率は25.0%で平年(27.8%)並、発病度は5.0%で平年(12.1%)よりやや低かった。

イ. 5月25日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量はほぼ平年並とされており、発病をやや抑制する条件である。

(2) 褐斑病

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 5月24、26日の巡回調査では、発生圃場率は50.0%で平年(7.5%)より高かった。

イ. 5月25日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量はほぼ平年並とされており、発病をやや助長する条件である。

防除上の参考事項

ア. 被害葉は初期に除去し、処分する。

イ. 岡山県下ではトップジンM水和剤耐性菌が広く確認されているが、ジマンダイセ

ンフロアブル、ダコニール 1000 などによる病原菌感染前の予防散布が有効である。

(3) 炭疽病

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. 5月24、26日の巡回調査では、平年同様発生を認めなかった。

イ. 5月25日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量はほぼ平年並とされており、発病をやや助長する条件である。

(ダイコン)

(1) 軟腐病

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 並

予報の根拠

ア. 5月24、26日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年(6.9%)より低かった。

イ. 5月25日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量はほぼ平年並とされており、発病をやや助長する条件である。

(2) コナガ

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 赤磐市における5月1～5半旬のフェロモントラップへの誘殺数は46頭で、平年(23.5頭)よりやや多かった。

イ. 5月23日の巡回調査によると発生圃場率は75.0%で、平年(38.3%)より高かった。

(野菜共通)

(1) アブラムシ類とアブラムシ伝搬性のモザイク病

予報内容

発生量 アブラムシ類 **やや多**
モザイク病 並

予報の根拠

ア. 赤磐市における5月1～5半旬の黄色水盤への飛来数は1,601頭で、平年(472.1頭)より多かった。

イ. 5月24、26日の巡回調査によると、アブラムシ類の発生量は平年並であった。モザイク病は発生を認めず、発生圃場率は平年(キュウリ:2.5%、トマト:1.2%)よりやや低かった。

ウ. 5月25日の季節予報によると、6月の気温は高く、本虫の発生をやや助長する条件となる。

(2) ミナミキイロアザミウマ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 5月24日の巡回調査によると、ナスでの発生量は平年よりやや少なかった。

イ. 5月26日の季節予報によると、6月の気温は高く、発生を助長する条件となる。

4. 花 き

(キ ク)

(1) 白さび病

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 少

予報の根拠

ア. 5月24、26日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年（14.2%）より低かった。

イ. 5月25日の季節予報によると、6月の気温は高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

(2) ナミハダニ

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 並

予報の根拠

ア. 5月24日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年（2.5%）よりやや低かった。

イ. 5月26日の季節予報によると、6月の気温は高く、発生を助長する条件となる。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、
http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239 です。

